

## 厳島神社: 高舞台の擬宝珠

厳島神社の高舞台は、神社本殿の真正面のテラスにある正方形の舞台です。舞楽の上演に使われるもので、8つの擬宝珠のある欄干に囲まれています。擬宝珠は、四隅および対になった舞台入口それぞれの脇にあります。これらの擬宝珠は、高舞台を少なくとも16世紀以来飾ってきました。擬宝珠の側面に詳細が刻まれており、1546年に神社に寄進されたものです。今でもはっきりと読める文言は、擬宝珠が厳島神社の宮司の贈り物であったことを伝えています。宮司をその役職に就けたのは、宮島を含めた安芸の守護であった大内氏の当主、大内義隆（1507～1551年）でした。高舞台で現在用いられている擬宝珠は、近代の複製です。